

健康

質問

今年5月に肺がんとの診断を受け、抗がん剤治療を始めました。肝臓にも転移があるとのこと、すごく不安です。家族に心配をかけたくないので詳しく話していません。最近、主治医から、かかりつけ医(ホームドクター)を持つよう勧められました。通院に少し時間はかかるものの、治療のため病院に通院しているのに、なぜ他の病院が必要なのですか。どんな病院があるかも分かりません。

かかりつけ医なぜ必要



高田 裕子
徳島大学病院
がん相談支援センター
看護師

回答

突然のことが驚いていることでしょう。抗がん剤治療や副作用、今後の生活などいろいろな不安を感じていると思います。

抗がん剤治療は吐き気止めの薬の開発が進み、吐き気はかなり改善されています。

個人差はあるものの、抗がん剤投与後は、食欲が落ちたり、体がだるくなったり、口内炎で食事が取りにくくなったりする症状が出ます。

かかりつけ医というのは患者に対して日常的な診療をしたり、患者の健康管理をしたりする身近な医師のことですが、肺がんの患者にも力になってくれます。

身近な医師 対応細やか



大きな病院では待ち時間が長かかります。また、抗がん剤の副作用で入院が必要なときにベッドに空きがないと、対応が難しい場合があります。

かぜや抗がん剤の副作用で食欲が落ち、点滴治療が必要になったときなどは、かかりつけ医がいれば安心できます。細かい点まで何でも相談に乗ってもらえます。必要なときは治療先の病院に連絡してくれるかかりつけ医をぜひ持つようにしましょう。

治療中は金銭面や将来の生活、仕事などいろいろな心配が出てきます。心配をかけたくないと思

って家族にあまり話さない人もいます。しかし、誰かに相談することで、気持ちが楽になることがあります。

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
〈電088(634)6442〉
(平日午前8時から午後5時)
へ。



治療や症状の不安には専門の看護師や心理士が対応します。社会制度についてはソーシャルワーカーが相談に応じ、就労にはソーシャルワーカーと看護師が対応します。患者や家族、地域住民は無料で利用できます。

窓口では療養生活全般に加え、地域の医療機関についても相談でき、連携している地域の医療機関などを紹介してもらえます。個室でゆっくり相談できる環境が整っています。一人で悩まず相談窓口を活用し、家族と一緒に身体的、精神的なストレスの少ないがん治療で回復を図ってください。(第4土曜掲載)

相談窓口で不安解消を